

教科名	数 学 科		週時間数	3 時間	学年	2 年
使用教科書 及び 副教材等	教科書 「未来へひろがる 数学2」(啓林館) 副教材 ・「数学の問題ノート」(新学社) ・「数問チェックノート」(新学社) ・「数学ノート」(明治図書)					
学習のねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・文字の式、方程式、関数、図形などに関する基礎的な知識、技能を身につける。 ・筋道を立てて考え、ものごとを合理的に処理する能力を伸ばす。 ・自主的、積極的に考え、新しいものごとを理解し創造しようとする能力と態度を養う。 					
目指す姿	支え合う	<ul style="list-style-type: none"> ○課題に対して数学的な見方・考え方を働かせて、自分の考えを持ちたり、他者にわかるように伝えたりしようとする姿。 ○グループ活動を通して、自分の考えを他者に伝えるとともに、他者の考えを受け入れ、相違点や共通点について考えようとする姿。 				
	高め合う	<ul style="list-style-type: none"> ○グループ活動などを通して、気づいてことをもとに、思考を深めることで、問題を解決しようとする姿。 				
学習の進め方	【学習への取り組む姿勢】 <ul style="list-style-type: none"> ○授業では教科書を中心に、基礎学力をつけることを目標に取り組みましょう。 ○基本問題を終えた後、主に問題集を使い応用問題にも取り組みましょう。 ○授業中の発表、発言、生徒同士の教えあいを大切にし、意欲的に授業に取り組みましょう。 【家庭学習】 <ul style="list-style-type: none"> ○授業の予習・復習を必ずしましょう。 ○授業で分からないところがあれば、その日のうちにわかるようにしましょう。 【端末の活用】 <ul style="list-style-type: none"> ○ドリルパークを使って、個々の理解度に合わせて問題に取り組みましょう。 ○理解しづらい内容は、教科書のQRコードを利用しましょう。 					
	出題方針	教科書の内容に準じて、基本的な数学力を問う問題を出題します。また、応用問題の出題により、数学的な思考・判断・表現の習熟度を計ります。				
定期テスト	範 囲 (予定)	1学期中間	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒストグラムと相対度数(1年生 7章) ・式の計算 ・データにもとづく確率(1年生 7章) ・文字式の利用 			
		1学期期末	<ul style="list-style-type: none"> ・連立方程式 ・連立方程式の利用 			
		2学期中間	<ul style="list-style-type: none"> ・一次関数とグラフ ・一次関数と方程式 ・一次関数の利用 			
		2学期期末	<ul style="list-style-type: none"> ・平行と合同 ・証明 ・三角形 			
		学 年 末	<ul style="list-style-type: none"> ・四角形 ・場合の数と確率 ・箱ひげ図 			
評価方法	観点	評価の方法		評価について		
	知識・技能	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト、定期テスト等 ・授業への取組 		<ul style="list-style-type: none"> ・基礎的な概念や原理・法則などを理解するとともに、事象を数学化したり、数学的に解釈したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けられたか。 		
	思考・判断・表現	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト、定期テスト等 ・授業への取組 		<ul style="list-style-type: none"> ・数の範囲を拡張し、数の性質や計算について考察したり、文字を用いて数量の関係や法則などを考察したりできたか。図形の構成要素の關係に着目し、図形の性質や關係を直感的に捉え論理的に考察し表現できたか。数量の変化や対応に着目して関数關係を見出し、その特徴を表、式、グラフなどで考察できたか。データの分布に着目し、その傾向を読み取り批判的に考察して判断したり、不確定な事象の起こりやすさについて考察したりできたか。 		
主体的に学習に取り組む態度	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト、定期テスト ・ワーク、ノート、プリントの提出と取組内容 ・授業への取組 		<ul style="list-style-type: none"> ・ワーク、ノートの提出物、プリントの達成状況や取り組み内容、授業態度や意欲的な姿勢等を総合的に判断する。 ・数学的活動の楽しさや数学のよさに気付いて粘り強く考え、数学を生活や学習に生かそうとする態度、問題解決の過程を振り返って検討しようとする態度、多様な考えを認め、よりよく問題解決しようとしたか。 			